

WAYプロジェクト（校内道德教育推進委員会）レポート・5

2019・10/10（木）

今回も地域から仲川さん、石口さんにも参加いただき、10月7日に行われた向本校長による「哲学とは」の授業と、9日に行われた第1回哲学対話の感想や生徒の様子について話し合いを行いました。その時に出た意見を紹介させていただきます。

授業の内容については、HPのWayプロ「2年生哲学シリーズ」をご確認ください。

「哲学とは」

自分の思う自分と他人が思う自分の認識が違うことがある。その認識の違いから、本当の自分とは何かを考えるのが哲学である。そういった話を向本校長の「生い立ち」も交えて話をしてくれた。その話を、生徒は集中して聞くことができていた。特に今悩みを持っている生徒たちにとって、自分とは何かを考えるきっかけになったのではないかな。

「第1回 哲学対話」

生徒の様子として、楽しく答えのない問いにチャレンジしていた。自分のことを迷いなく答えられるという意味では哲学対話は大正中ではやりやすいのではないかな。3人のグループでうまく話し合いができていた。

人の見える角度は見ようとすればするほど周りが見えなくなる。1つの事象（絵）を見ても、見る人や角度が違えば事実が変わる。それはクラスの担任でも同じではないかな。だからこそ、他の人の意見も聴くことで新しい発見ができる。また、授業後も子どもたちの中で、授業中にはできなかった写真についての話し合いができていた。

生徒の中には生い立ちの中で自分が何者なのか悩んでいる生徒が多い。哲学対話を進めることで、「家族って何だろう」「人って何だろう」といったことを考えることで改めて自分とはどんな人間なのかを考えるきっかけになる。また、対話を通して自分の気付かないような部分を発見できるのではないかな。今回の授業やWayプロの活動を通して1つの事象を考えると、自分だけの考えだけでは狭く凝り固まった考えになってしまうことが改めて感じることが出来た。自分が思っている「自分」と他人が見ている「自分」のは異なっているもので、正解があるものではないのかもしれない。兄弟で同じような環境の中で育ってきても、進む方向や考え方が異なる。兄弟でも、自分を取り巻く環境が全く同じである人などいない。そういった自分の育った環境や、周りの人からの意見から自分の生き方や考え方を見つけ出していくことが哲学対話なのではないかなと感じた。

（文責 新子）

